

令和4年度 学校評価報告書（実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月8日実施)	総合評価（3月22日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・定時制総合学科、単位制の利点を活かし、基礎学力の定着や学習意欲の向上を図る教育課程を提供する。 ・多様な生徒の学習ニーズに応える柔軟な学習支援の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりの実情に合わせた履修指導、教科指導、単位修得指導を引き続き行う。 ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、ICTを活用するとともに組織的な授業改善に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実情に合わせたきめ細かな履修指導を行い、単位修得につなげる。 ・生徒一人ひとりに応じた丁寧できめ細かな教科指導を実践する。 ・ICTを活用した授業実践、校内授業研究を実施し、授業力向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・成績不振となる生徒を引き続き減少することができたか。 ・生徒による授業評価の「授業の在り方」について肯定的な意見が80%を維持できたか。 ・ICTを活用した授業実践、校内授業研究を実施できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科において丁寧な指導を行い、年度末成績会議では成績不振生徒はいなかった。 ・生徒による授業評価の「授業の在り方」について、すべての教科で80%以上の肯定的な意見を維持できた。 ・ICTを有効活用して個別最適化の授業等の授業実践、4回の校内授業研究を実施できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、単位修得につながる丁寧な教科指導、履修指導を行う。 ・引き続き、個に応じた丁寧できめ細かな教科指導を行う。 ・ICTの有効活用に関する授業研究、主体的・対話的で深い学びにつながる授業実践を引き続き行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・きめ細かい丁寧な指導、成績不振生徒がなくなったこと、担当の先生方のご努力、ご苦労の賜物です。 ・授業評価アンケートの方法について、紙面によるかウェブ上かの説明があるのが望ましい。 ・社会の一員として生活するための知識を習得しておく必要性の醸成をお願いする。 ・ICTに関して、キーボードの使用は社会人には必要であり、対応されたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科において、きめ細かで丁寧な指導を行い、年度末には生徒の成績不振者が無しとなり、単位修得につなげることができた。 ・フォームにより実施した、生徒による授業評価の「授業の在り方」について、概ね良好な意見であり、きめ細かな教科指導ができた。 ・ICTを有効活用した授業実践の共有を図るため、校内授業研究・研究協議を実施し、「主体的・対話的で深い学び」につながる授業実践を行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、生徒一人ひとりに応じた丁寧できめ細かな教科指導を行い、学びの充実を図り、成績不振生徒を減少し、単位修得につなげる。 ・今後も「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、ICTを有効活用した授業実践、端末を活用した授業実践の共有を図り、授業改善に組織的に取り組む。
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒にとって安心、安全な教育環境の確保に努め、生徒の自己実現に向けたきめ細やかな支援の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりの課題を発見、解決するために、支援体制のさらなる充実を図り、適時に支援・指導を行う。 ・成年年齢引き下げに伴い、成年に求められる思考力、判断力の育成を図り、社会で通用する価値観が身につくよう支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒情報を密に連携することで、生徒一人ひとりの課題を早期に発見し、保護者等と連携を図りながら課題解決を目指す。 ・学校生活のみならず、学校外における行動に対して、個別の指導、集会等を利用して適宜支援・指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間での生徒情報の緊密な交換が行われたか。 ・必要に応じて保護者等と連携し、課題解決に結びつけることができたか。 ・問題行動はもとより、規範意識の醸成ができたか。 ・社会通念上必要となる価値観の育成が行われたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・長期休業前後で生徒面談を実施、その後教育相談会および生徒情報交換会を行い、生徒情報の共有を図った。また、面談前に行った生徒アンケートの結果、「悩みが相談できる人」の項目で「先生」を選んだ生徒が1人から11人に増加、また面談をとおしてスクールカウンセラーにつながった生徒が3人いたことから、非常に効果が高かったと考えている。 ・授業、LHR、集会をとおして引き続き社会に必要な見方、考え方を支援・指導した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・長期休業前後の生徒に面談効果があったことから、次年度も引き続き実施していきたい。また、生徒情報の共有に関しては、グループ業務の変更を行い、より緊密に連携できるよう改善していく。 ・成年年齢引き下げが行われたことで、学校には成年と未成年が混在しているが、成年未成年の別なく継続して支援・指導していきたい。また、成年であっても喫煙や飲酒ができないこと、社会的責任が18歳から必要とされることを引き続き粘り強く伝えていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や関連機関との連携をお願いする。 ・全員と面談をして、その結果、相談したい相手として先生を対象に選ぶ生徒が増えたことは、粘り強い取組による大きな成果である。生徒と先生との間の門が1回開いたことで、今後困った時にはその門を叩こうという気に生徒がなっている。ニーズのある生徒の掘り起こしになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度より定例で行った教育相談会、長期休業前後に行った生徒面談をとおして、職員間での生徒情報の共有やSC、SSWとの連携が昨年度と比べ飛躍的に増加した点が成果として挙げられる。また、保護者や外部機関との連携を含め、生徒の支援が適時・適切に行われた。 ・問題行動として指導したのは1件あったものの、それ以外は適切な指導を行いながら未然に防ぐことができた。また、問題行動が疑われる事象が起きた際、迅速に全職員が組織的な対応を行うことができた。 ・全校集会やLHRにおいて、社会通念上必要となる価値観を醸成するための講演会や講話を実施し、社会生活に資する基礎を伝えることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の取組を引き続き次年度も行い、生徒理解、生徒支援、SCやSSW、外部との連携が迅速に行われるよう努めていきたい。さらに、生徒の支援を担任一人で抱えてしまうことがないよう、生徒支援グループが主導して職員間の情報共有をさらに充実させていきたい。 ・生徒の問題行動を未然に防ぐ取組、集会等をとおして社会通念として必要な価値観の醸成に関し、引き続き取り組んでいきたい。

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月8日実施)	総合評価(3月22日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の実情に沿ったキャリア教育を推進し、社会生活実践力の育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人ひとりのニーズに対応した進路指導・支援を行い、希望の進路実現を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の状況を把握し、引き続き個々に応じたきめ細かな進路指導を行う。 進路だよりを発行し、生徒、保護者等、年次職員と進路情報を共有する。 就労支援機関との連携をさらに進め、特別な支援が必要な生徒の就労支援を強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路実現の達成が80%以上を維持できたか。 進路だよりを引き続き月2回以上発行できたか。 就労支援機関との連携をさらに進め、適切な就労支援を行えたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 個に応じた丁寧な指導を行ったが、80%を維持できなかった。 就業体験等に多くの生徒が参加した。 進路だよりを月2回以上発行し、生徒、保護者、職員と進路情報を共有することができた。 就労支援機関との連携をさらに進め、早期からの就労支援につなげることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路決定に向け、引き続き指導を行う。 入学当初から就業体験等への参加を促し、職業観を育成する。 進路に関する情報を共有するため、進路だよりの発行を継続する。 発達の特性に応じた支援のあり方を継続的に、組織的に検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 80%達成の維持の目標に対し、どの程度達成したか。 ご担当の先生方は想像できないご苦労をされていると思う。引き続き指導・支援をお願いする。 	<ul style="list-style-type: none"> 個に応じた丁寧な指導を行い、最終的には90%の進路決定ができた。 多くの生徒が就業体験等に参加し、将来の職業について具体的に考えることができた。 進路だよりの発行を継続することにより、職員、生徒、保護者等と進路情報に関する共有ができた。 就労支援機関との連携をさらに進め、支援が必要な生徒を早期から就労支援につなげることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 個に応じたきめ細かな指導を行うことにより、進路実現につなげる。 引き続き、職業観を育成し、進路実現につなげるために、年度当初から就業体験等への参加を促す。 今後も、進路に関する情報を共有し、希望の進路につながるよう指導支援する。 発達の特性に応じた支援のあり方を組織的に検討し、適切に就労支援等につなげる。
4	地域等との協働	<ul style="list-style-type: none"> 学校外の機関と協働・連携や外部人材の活用により、地域の教育力を生かした学校づくりを進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒のニーズに対応した就労支援を行うため、外部機関との協働を図る。 本校ホームページを活用し、教育活動を発信することにより、地域とともに育つ向工を実現する。 	<ul style="list-style-type: none"> 公的機関、地元の企業等と連携し、協働による学びを進める。 本校ホームページや後援会活動等を通して、保護者等や地域の方々へ学校行事等への参加を呼びかける。 	<ul style="list-style-type: none"> 外部機関と連携した授業実践を行えたか。 学校行事を始めとする必要な情報を、ホームページを通して月に2回以上更新できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 県内の公的機関、地元の企業等と連携した授業実践や学外学修を行うことができた。 後援会活動等を通して、地域との連携を行っている。 在校生徒や保護者、地域の方々や本校への進学希望者への有益な情報について、月に2回以上の更新目標をおおむね達成できている。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒のニーズを踏まえた進路指導・進路支援を行うため、引き続き外部機関と連携した授業や学びを継続していく。 後援会活動や地域貢献活動等を継続して行っていく。 在校生徒や保護者、地域の方々や本校への進学希望者に対し必要な情報を滞りのないように更新する。 	<ul style="list-style-type: none"> 町内会行事の際、校則とコロナ感染状況を考慮し「向工の良さをアピールする」上で生徒の参加が可能であれば実施に向け話し合いたい。 卒業生が地域社会に受け入れてもらえるよう指導・支援をお願いする。 	<ul style="list-style-type: none"> 県内の公的機関や地元の企業等と連携し、職業観を育成する学校外の学習や連携授業を行うことができた。 感染症対策のため、保護者等や地域の方々の学校行事への参加は限られたが、ホームページ等を用いて本校の教育活動を情報発信することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、地元の企業や公的機関等と連携し、協働による学びの充実に努める。 今後も本校における教育活動をホームページに掲載し、効果的な情報発信に努める。
5	学校管理 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> 安全教育、環境教育を推進し、安心安全な教育環境を構築する。 全ての職員の資質向上を図るとともに、風通りの良い職場づくりをめざし、教職員の事故不祥事を未然に防止する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が安心・安全な学校生活を送れるようにするとともに、ICTを効果的に用いながら、防災体制の一層の充実を図る。 職員の資質向上に向け、全職員が引き続き連携・協力して不祥事防止に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業や特別活動の中で、消毒作業を始めとする適切なコロナウイルス感染症対策を講じ、生徒の安心・安全に留意した教育活動を行う。 計画的に防災訓練を行い、生徒・職員の防災意識を高める。 定期的に不祥事防止等の研修を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業後等に適宜教室の消毒を行い、生徒が安心・安全に学校生活を送ることができるような学校づくりを実践できたか。 計画的に防災訓練を行い、生徒・職員の防災意識を高めることができたか。 全職員で不祥事ゼロを達成できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 教室や施設の使用後、消毒の担当者が適切に消毒を行う等、環境整備に努めている。 授業中を想定した垂直避難を実施し、生徒・職員の防災意識を高めることができた。 D I G訓練を行い、緊急時の適切な行動を検討することができた。 不祥事はゼロであった。 	<ul style="list-style-type: none"> 感染症対策等の状況を適切に捉えながら、今後も各教室の消毒を始めとする環境整備に努める。 様々な場面を想定した防災訓練を実施し定期的に防災マニュアルの見直しを行うとともに、災害時を想定した準備、備蓄品や防災用品の整備・管理を行う。 引き続き、全職員で不祥事ゼロを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 災害訓練の定期的実施がなされていて、素晴らしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な教育活動において感染症対策を念頭に置き、適切に消毒作業等に努めた。 D I G訓練(災害図上訓練)では、生徒が住んでいる地区ごとに班を分け、少人数で実りある図上訓練を行うことができた。 避難訓練では、授業中を想定した実践的な垂直避難を行い、職員・生徒双方の防災意識を高めることができた。 定期的に不祥事防止研修を行い、全職員で不祥事ゼロを実現できた。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も引き続き適切な衛生管理を実践し、生徒の安心・安全な学校教育を実現する。 防災訓練やD I G訓練(災害図上訓練)については、様々な状況を想定して定期的に実施した上で、訓練中に出た課題を克服しながら、より確実な備えをする。 今後も全職員で不祥事ゼロを目指す。